

第1学年国語科学習指導案

1 単元名 ちがいをかんがえてよもう「どうぶつの赤ちゃん」

2 単元の目標

- ライオンとしまの赤ちゃんの生まれたばかりの様子、大きくなっていく様子を比べて読み取り、動物の赤ちゃんの違いが食べ物の違いに理由づけられることに気付き、動物の赤ちゃんに対する見方・考え方を深めることができる。
- 冒頭の課題文から問題をとらえ、時間の順序に気を付けながら、違いを意識付ける言葉の工夫や接続語の働きに気付いて、比べる読み方を身に付けることができる。

3 単元の授業課題

- めあてに沿った疑問や問題意識を引き出す工夫をしている。(④)
- 子どもの考えを引き出したり、明確にしたりするために問い返している。(⑭)
- 友だちの考えや読み方のよさを全体に広げて気付かせている。(⑮)
- 子どもを注目させ、一回で分かるように発問している。(⑱)
- 文字の大きさ、行間、色、線などを工夫して見やすく板書している。(㉑)
- 指示、発問、指名、賞賛等をタイミングよく取り入れて変化をもたせている。(㉓)

4 子どもの実態と授業課題

- 本学年の子どもたちは、これまでの「いろいろなくちばし」「じどう車くらべ」の説明文の学習を通して、課題文とその答えの文の対応に気付き、写真や挿し絵と叙述をつないで内容を読み取る学習を進めてきた。その中で、意欲的に発表しながら言葉や文をたどり、違いを見つけようとする姿が見られるようになってきている。しかし、視写をする力・すらすら音読する力が不十分であり、読みの深まりに個人差が見られる。また、読み取ったことをうまく言葉で伝えることが難しい実態がある。
- これまでの授業工夫改善の成果と課題から、本単元では、めあてに沿った疑問や問題意識を引き出す工夫をすること(④)、子どもの考えを引き出したり、明確にしたりするために問い返すこと(⑭)と、友だちの考えや読み方のよさを全体に広げて気付くようにすること(⑮)を重点的な授業課題として考えている。

読みの深まりに個人差が見られる要因のひとつとして、導入の段階で「この1時間で何を明らかにするか」という問題意識に差があることが考えられる。それは教師がめあてを提示するときに、学習計画とのつながりを感じさせないまま授業を進めてしまうことに原因があったものと考えられる。その課題を解決するために、まず学習計画の時に子どもたちの疑問から読み確かめる視点をもたせる工夫をしたい。そして、読み確かめの学習の時間の導入段階で、学習計画とのつながりをどの子にも視覚的に分かるようにし、問題意識を常に持ち続けながら読めるようにしていきたい。

読み取ったことをうまく言葉で伝えることが難しく、その子の考えのよさが全体に広まらないことが多くあったことについては、1年生の子どもたちの拙い言葉から、その奥にある考えを引き出し広げていくために、効果的な問い返しを工夫したい。そして、その考えのよさがどこにあるのかを教師が示す、または子ども達によさを見つけさせることで、学級全体の読みが深まるようにしたい。

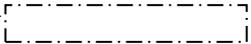
また、視写や音読をする際に指示を明確にし、賞賛を多く取り入れることで、視写をする力、すらすらと音読する力を伸ばしていきたい。

5 教材の考え方と授業の工夫改善

本教材は、冒頭の課題文で2つの視点が分かりやすく提示され、ライオンとしまの赤ちゃんの様子が母親との関係から説明され、2つの赤ちゃん同士が同じ視点で比べて説明されているという特徴がある。そこで、ライオンとしまの赤ちゃんとを比べることを意識させて読ませていく。すなわち、生まれたばかりの様子と大きくなっていく様子を比べながら違いを読み取り、どうしてこんなに違うのかを考えていく。「もう～あります」「目はあいていて、耳もぴんと立って」「三十ぶんもたたないうちに」「たった」「じぶんで～なります」などの叙述の違いを多くの子ども達に気付かせていきたい。そのために、読み確かめの学習の中で「ライオンとしまの赤ちゃんはどうしてこんなにちがうのか」という疑問を常に意識させ、叙述に即した読みを引き出すような問い返しをしたい。

6 単元の学習計画（全13時間）

次	時	学 習 活 動 と 内 容	指導上の留意点（※工夫改善の項目）
読 み 通 し の め あ て	1 / 13	<p>題名「どうぶつの赤ちゃん」と冒頭の課題文から、生まれたばかりの様子と大きくなっていく様子を読んでいくための読み通しのめあてを生み出す。</p> <p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>2 題名について話し合う。</p> <p>3 題名から出た疑問を整理して冒頭について話し合う。</p> <p>4 冒頭の課題文に着目し、読み通しのめあてを作る。</p> <p>— 読み通しのめあて —</p> <p>どうぶつの赤ちゃんは、生まれたばかりのときは、どんな様子をしているのかな。そして、どのようにして、大きくなっていくのかな。</p>	<p>○ 既習の学習をふり返り、意識付ける。</p> <p>※ 題名をもとに、生活経験とつなぎ、動物の赤ちゃんについて知っていることや思ったことを発表させる。(④)</p> <p>○ 動物の赤ちゃんに対するイメージを持たせるために、写真資料を用意する。</p> <p>※ 既習学習から課題文が提示されていることに気付かせる。(④)</p> <p>○ 「様子」とはどのようなものなのかをこれまでの具体的な発言とつないで確認しておく。</p> <p>○ 「大きくなっていく様子」を自分が大きくなった経験とつなぐ。</p>
	予 見	2 ・ 3 ・ 4 / 13	<p>全文を読み通して、ライオンとしまうまの赤ちゃんの生まれたばかりの様子と大きくなっていく様子を話し合い、読み確かめる視点を生み出す。</p> <p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>2 全文の範読を聞く。</p> <p>3 全文を読み通し、音読の練習をする。</p> <p>4 ライオンの赤ちゃんの生まれたばかりの様子と大きくなっていく様子が分かる文にサイドラインを引く。</p> <p>5 ライオンの赤ちゃんの予見を表に書きまとめる。</p> <p>6 しまうまの赤ちゃんの生まれたばかりの様子と大きくなっていく様子が分かる文にサイドラインを引く。</p> <p>7 しまうまの赤ちゃんの予見を表に書きまとめる。</p>
学 習 計 画	5 / 13	<p>8 生まれたばかりの様子と大きくなっていく様子を話し合っ、疑問を出し合う。</p> <p>9 ライオンの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんの違いから、読み確かめの視点を生み出す。</p>	<p>○ 予見をもとにライオンとしまうまの赤ちゃんを比べながら話し合わせる。</p> <p>※ 話し合いの中で問い返しながら、疑問や不確かな点を引き出し、読み確かめの必要感をもたせる。(⑭)</p> <p>※ どのように違うのか、なぜ違うのかという視点を持たせ読み確かめる意欲につなげる。(④)</p>

<p>読み 確 か め ① (B 組 本 時)</p>	<p>6 / 13</p>	<p>ライオンとしまうまの赤ちゃんの生まれたばかりの様子が、どこがどのように違うのかを比べながら読み確かめる。</p> <p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>2 生まれたばかりの様子を視写する。 ・ライオンとしまうまの赤ちゃんの生まれたばかりの様子で違うところを視写する。</p> <p>3 生まれたばかりの様子の違うところを話し合う。 子ねこぐらいの大きさです。←もうやぎぐらいの大きさがあります。 目や耳はとじたままです。 ←目はあいていて 耳はぴんと立っています。 ライオンはどうぶつの王さま ←といわれます。 よわよわしくてあまり ←しまのもようもついていてにいていません。 おかあさんにそっくりです。</p> <p>4 ライオンとしまうまの赤ちゃんの生まれたばかりの様子で分かったことをまとめる。</p>	<p>○ 学習計画表をもとに、前時とのつながりをもたせて意識付ける。 ○ 3で話し合う言葉をプリントに視写させる。 ○ 視写をしたプリントをもとに、「ライオンは～だけど、しまうまは～」という言い方で発表させる。 ○ 話し合いを通して、動作化や具体物を取り入れながら叙述を挿し絵と対応させ、生まれたばかりの様子の違いを具体的に思い描かせる。 ○ ライオンが動物の王様と言われる理由を既習の知識をもとに考えさせた上で、しまうまはどのように言えばいいのかを考えさせる。 ※ 指名、賞賛などをタイミングよく取り入れる。(⑯) ※ 違いをとらえる考えを引き出すための問い返しをする。(⑭)</p> <p>○ どこがどのように違うのかを書きまとめさせる。</p>
<p>読み 確 か め ②</p>	<p>7 / 13</p>	<p>ライオンとしまうまの赤ちゃんの大きくなっていく様子(前半)が、どこがどのように違うのかを比べながら読み確かめる。</p> <p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>2 大きくなっていく様子(前半)を視写する。 ・ライオンとしまうまの赤ちゃんの大きくなっていく様子(前半)で、違うところを視写する。</p> <p>3 大きくなっていく様子(前半)の違うところを話し合う。 じぶんではあるくことができません。←生まれて三十ぶんもたないうちに、じぶんで立ち上がります。 口にくわえてはこんでもらうのです。←つぎの日には、はしるようになります。  ←…にげることができるのです。</p> <p>4 ライオンとしまうまの赤ちゃんの大きくなっていく様子で分かったことをまとめる。</p>	<p>※ 学習計画表をもとに、前時とのつながりをもたせて意識付ける。(④) ○ 3で話し合う言葉をプリントに視写させる。 ○ 視写をしたプリントをもとに「ライオンは～だけどしまうまは～」という言い方で発表させる。 ○ 叙述を挿し絵と対応させ、様子を具体的に思い描かせる。 ○ 時間を表す言葉に着目させ、「立ち上がり」「はしるように」なるまでの成長の早さを生活経験とつないで、具体的にとらえさせる。 ※ 「じぶんでは」と「じぶんで」に着目した読みを全体に広げる。(⑮) ○ 前時のライオンの親子の関係から、しまうまの親子の関係を考えさせる。 ※ 違いをとらえる考えを引き出すための問い返しをする。(⑭) ○ 大きくなっていく様子が、どこがどのように違うのかを書きまとめさせる。 ※ 次時で、なぜ違うのかを明らかにし、確かめるための視点を持たせる。(④)</p>

12 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点（※工夫改善の項目） [㊦] 評価規準
<p>1 本時学習のめあてを確かめる。</p> <p>学習のめあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大きくなっていくようすで、ライオンとしまうまの赤ちゃんはどこがどのようにちがって、どうしてちがうのか、くわしくよもう。</p> </div>	<p>※前時の「今日の学習で」を読み、読み確かめる必要感を持たせる。 (④)</p> <p>※「くわしくよむ」ために、学習計画表から読み確かめる視点を位置づけ、本時学習の見通しを持たせる。(④)</p>
<p>2 予見で確かめた違いを視写する。</p> <p>3 大きくなっていく様子で、違うところ話し合い、どうして違うのかを考える。</p> <p>(1) おちちだけを飲む期間の違いについて、話し合う。</p> <p>生まれて二ヶ月ぐらいは ←→ たった七日ぐらい</p> <p>(2) 大人と同じように食べ物を食べるまでの期間の違いについて、話し合う。</p> <p>やがて～</p> <p>一年ぐらいたつと、～ ←→</p> <p>えものとりかたをおぼえます。</p> <p>じぶんでつかまえて ←→ そのあとは、～じぶんで草もたべるようになります。</p>	<p>○ 予見で明らかになった違いが書いてある叙述を書き抜き、本時でくわしく読む叙述を意識付ける。</p> <p>○ 視写したプリントをもとに、ライオンの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんを比べて違いを発表させ、矢印を板書に書き込む。</p> <p>T 大きくなっていく様子で、ライオンの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんはどう違いますか。</p> <p>○ 二か月と七日の違いをテープ図で表し、成長の早さを具体的に感じさせ、生活経験とつないで実感できるようにする。</p> <p>○ 矢印を太くし、違いが明確になったことを板書で位置付ける。</p> <p>○ 「えもの」「草」がお母さんと同じ食べ物であることを確かめる。</p> <p>T：おちちのあと、何を食べるようになりますか。</p> <p>C：ライオンはお母さんのとったえものです</p> <p>C：しまうまはおちちも飲むけど、草も食べるようになります。</p> <p>○ 「じぶんで～なります」の叙述から前時を想起し、一人でできるようになることであることを確かめる。</p> <p>T：一人でお母さんと同じ食べ物を食べられるのは、いつからかな。</p> <p>○ 一年と一週間の違いもテープ図で表し、生活経験とつないで実感させる。</p>
<p>(3) どうして、こんなに違うのか話し合う。</p> <p>4 ライオンとしまうまの赤ちゃんの大きくなっていく様子から分かったことをまとめる。</p>	<p>※ 前時までには確かめたライオンとしまうまのお母さんの違いをもとに、なぜ違うのか違いを考えさせる。(⑮)</p> <p>T：どうして、大人と同じ食べ物を食べるまでにこんなに時間が違うのかな。</p> <p>C：ライオンはお母さんが動物の王様で強くて、ずっと守ってくれるからだと思います。</p> <p>C：しまうまはお母さんと一緒に逃げないといけないからだと思います。</p> <p>※ お母さんの違いをもとに、ライオンとしまうまの食べものの違いに気付かせる。(⑭)</p> <p>T：ライオンの赤ちゃんは、どうして大人と同じ食べ物を食べるまでに1年もかかるのかな。</p> <p>C：「えもの」は動いて逃げるからです。</p> <p>T：食べ物が違って、お母さんの守り方も違うから、赤ちゃんの生まれたばかりの様子も大きくなっていく様子もこんなに違うんだね。</p>
	<p>㊦ ライオンとしまうまの赤ちゃんの大きくなっていく様子の違いから、親子の関係に触れた感想を書くことができる。</p>

